

令和7年11月10日

瀬戸内市議会議長

小野田 光 様

瀬戸内市議会議員 秦井 誠司

政務活動費研修報告書

政務活動費を使用して、次のとおり研修活動をしましたので、その結果を報告します。

期 間	令和7年10月30日
研修会名	全国過疎問題シンポジウム2025 in とっとり
開催場所	とりぎん文化会館梨花ホール 鳥取県鳥取市尚徳町101-5
研修目的・ 内容	<p>目的；日本全体が人口減少社会を迎える中、特に過疎地域では人口減少や少子高齢化の進展による地域産業の衰退や生活基盤の弱体化、集落消滅の危機など、さまざまな課題に直面している。その中、本市でも今後の課題について考える契機とするための参加とする。</p> <p>内容；今回の基調講演「次世代につなぐ人づくりとエコシステム」、講師；中塚 雅也氏（神戸大学大学院農学研究科 教授）を拝聴し、以前は地域活性化が言われていた課題であるが、今は人材確保へと方向に変化があるとのことだ。</p> <p>地域活動に若者参加を促したり、UIJターンの発信強化をしたり、移住者・地域おこし協力隊を勧めるなどの活動を通じて、地域を丸ごと盛り上げていくことが中心となっている、とのこと。</p> <p>パネルディスカッション「世代を超えて安心して住み続けられるふるさと ～自然・人・活力とともに～」では、様々な地域から市民活動団体のリーダーや、市民活動を支援する立場などの女性4人が話しを展開する。市民活動を盛り上げるためには人や事柄に興味を持って進めていくことが大事とのことであった。</p>



所 感

今回は「全国過疎問題シンポジウム 2025 in とっとり」への参加において、全国的な課題である過疎問題の核心的な答えのようなものを期待しながら参加してしまっていた。おそらく会場の大半は同じような心境であったのかもしれない。

ところが講師の中塚教授が言われるには、人口が減少することや過疎化することに特効薬やスタンダードな対策があるわけではない。むしろ人口が減少していることを悲観せずに過ごし、人口減少していくことや過疎化していくことが当たり前であり、そのようにやり過ごすことが幸せにつながるということを主張されていた。この考えには納得感があり、来場者もそのような雰囲気にもまれていた。

さらに中塚教授が行ったとされる高校生へのアンケートで、人口減少についてどのように思うかという項目において、「特に何も問題を感じない」と答えた生徒は99%だったそう。このことから分かるように、私たち大人は過去や他国と比較しがちであるが、過去を知らない若者は過疎問題や人口減少に対して、やや不便を感じることはありながらもストレスなく過ごしている。つまり、課題の意識は必要であるが、過疎問題、人口減少、若者流出、少子化などにおいては現状を受け入れ、順応していくことが大切であるということが伺える。反対に、過疎問題のように大きな時流に逆らうことは、わずかな成果があるかもしれないが失敗することが想像できる。このようなことから現状を否定して改善へ導くのではなく、現状を受け入れて理解しながら、進化していく、もしくはバージョンアップしていくことが重要ではないかと考えさせられたシンポジウムであった。

以上